

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 平成23年11月14日

【四半期会計期間】 第63期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

【会社名】 西川ゴム工業株式会社

【英訳名】 NISHIKAWA RUBBER CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 西川正洋

【本店の所在の場所】 広島市西区三篠町二丁目2番8号

【電話番号】 (082)237-9371(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 福岡美朝

【最寄りの連絡場所】 広島市西区三篠町二丁目2番8号

【電話番号】 (082)237-9371(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 福岡美朝

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第62期 第2四半期 連結累計期間		第63期 第2四半期 連結累計期間		第62期	
		自 至	平成22年4月1日 平成22年9月30日	自 至	平成23年4月1日 平成23年9月30日	自 至	平成22年4月1日 平成23年3月31日
売上高	(百万円)		26,370		27,873		52,019
経常利益	(百万円)		3,128		660		5,453
四半期(当期)純利益	(百万円)		2,139		346		3,828
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)		1,282		90		3,202
純資産額	(百万円)		38,596		41,576		42,077
総資産額	(百万円)		66,010		69,987		71,835
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)		109.31		17.69		195.60
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		109.25				195.54
自己資本比率	(%)		58.3		57.4		56.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		3,663		339		8,406
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		2,851		92		5,865
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		327		755		671
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)		10,164		10,659		11,745

回次		第62期 第2四半期 連結会計期間		第63期 第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成22年7月1日 平成22年9月30日	自 至	平成23年7月1日 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		59.04		14.97

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第62期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
4. 第63期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当企業集団が営む事業の内容について重要な変更はありません。
また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況などに関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象などは存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結などはありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、アジア新興国を中心に経済成長が続いているものの、欧米諸国においては金融不安等により回復基調の鈍化が見られるなど、依然として厳しい状況が続いております。

また、国内においては東日本大震災による甚大な影響により、一時的に生産活動が大きく低下しました。その後、サプライチェーンの復旧が順調に進み生産活動は持ち直してまいりましたが、電力供給不安、急激な円高、原材料価格の上昇などにより先行き不透明な状況で推移いたしました。

自動車部品業界におきましては、自動車の生産が震災の影響により5月後半まで大幅に落ち込んだことにより前年同期を下回って推移いたしました。

このような状況下におきまして、当社グループは前期にニシカワ・クーパーLLCを連結子会社化するなど、グローバルマーケットでの拡販強化を推進してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は278億73百万円（前年同期比5.7%増）となりました。利益につきましては、西川ゴムグループ総コスト低減活動を継続したものの、震災による操業度低下および原材料価格の上昇などにより、営業利益は5億47百万円（前年同期比77.7%減）、経常利益は6億60百万円（前年同期比78.9%減）、四半期純利益は3億46百万円（前年同期比83.8%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

（自動車用部品）

自動車の生産が震災の影響により5月後半まで大幅に落ち込んだことが影響しましたが、前期にニシカワ・クーパーLLCを連結子会社化したことにより、売上高は255億74百万円（前期同期比4.5%増）となりました。利益につきましては、震災による操業度低下および原材料価格の上昇などにより、営業利益は2億99百万円（前年同期比86.9%減）となりました。

（一般産業資材）

住宅メーカー向けおよび土木関連製品などの一般産業資材の大きな需要増加となった結果、売上高は22億98百万円（前年同期比21.2%増）となり、営業利益は2億47百万円（前年同期比50.0%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ18億47百万円減少し699億87百万円となりました。主な増加は受取手形及び売掛金および原材料及び貯蔵品などであり、主な減少は現金及び預金および投資有価証券などであります。負債は、前連結会計年度末に比べ13億46百万円減少し284億11百万円となりました。主な増加は短期借入金などであり、主な減少は未払法人税等などであります。また、純資産は前連結会計年度末に比べ5億円減少し415億76百万円となりました。主な増加は四半期純利益の計上などによる利益剰余金などであり、主な減少は少数株主持分などであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前第2四半期累計期間末に比べ4億95百万円増加し106億59百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金は、税金等調整前四半期純利益の減少や売上債権の増加などにより、3億39百万円の減少（前年同累計期間は36億63百万円の増加）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金は、定期預金の払戻による収入などにより、92百万円の増加（前年同累計期間は28億51百万円の減少）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金は、少数株主への配当金の支払いなどにより、前年同累計期間に比べ4億28百万円減少し、7億55百万円の減少となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

当社は、平成23年6月28日開催の当社第62回定時株主総会において、出席株主の過半数の賛同を得て会社法施行規則第118条第3号に定める「当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」（以下、「基本方針」といいます。）を決定するとともに、会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとして、「当社株式等の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下、「本プラン」といいます。）を以下のとおり導入いたしました。基本方針および本プランの概要は以下のとおりであります。

会社の支配に関する基本方針

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の社是、当社の企業理念を理解し、当社の企業価値の源泉、当社のステークホルダーとの信頼関係を尊重した上で、当社の企業価値および株主共同の利益を確保し、中長期的に向上させる者でなければならない。

会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組み

イ 当社の企業理念

当社は設立以来、「正道」「和」「独創」「安全」の社是のもと、企業活動を行う際の基本的な考え方を経営理念として定め、「しなやかでたくましい会社」であり続けることを社員に示しております。

ロ 企業価値向上への取組み

当社は、平成22年度までの中期基本方針として、収益体質の変革、グローバル対応の強化、顧客満足度向上等を定め、新興国市場でのシェア向上を実現することにより、企業価値の最大化に取り組んでまいりました。なお、当社は、平成23年4月を起点とする新中期基本方針に「売上拡大・成長」を新たな項目として追加し、活動を進めております。

本プランの内容（会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み）

イ 本プラン導入の目的

当社株式に対する大規模買付行為または大規模買付行為に関する提案が行われた際に、当該大規模買付行為に応じるか否かを株主の皆様にご判断を第一の目的とし、当社の企業価値および株主共同の利益を毀損する大規模買付行為を抑止することを、第二の目的といたします。

ロ 本プランの対象となる当社株式の買付

本プランの対象となる当社株式の買付とは、特定株主グループの保有割合を20%以上とすることを目的とする当社株式等の買付行為であります。

八 大規模買付ルールの内容

「大規模買付ルール」とは、大規模買付行為に先立ち、a. 事前に大規模買付者が当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、b. 当社取締役会による一定の評価期間が経過し、c. 当社取締役会の評価内容・意見を株主の皆様へ開示した後に初めて大規模買付行為を開始することを認めるというものであります。

二 大規模買付行為がなされた場合の対応

a. 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、大規模買付行為に対する後記b. のケースのような対抗措置は原則講じません。

b. 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかった場合には、新株予約権の無償割当等、会社法その他の法令等により認められる対抗措置を講じ、大規模買付行為に対抗する場合があります。

ホ 対抗措置の合理性および公平性を担保するための制度および手続き

a. 独立委員会の設置

本プランを適正に運用し、当社取締役会による恣意的な判断がなされることを防止し、その判断の客観性および合理性を担保するために、独立委員会を設置することといたします。

b. 対抗措置発動の手続

大規模買付者に対する対抗措置をとる場合には、当社取締役会は、独立委員会に対し対抗措置の具体的な内容およびその発動の是非について諮問するものとし、独立委員会は当社取締役会に対して勧告を行うものとしたします。

へ 本プランの適用開始、有効期限、継続および廃止

本プランの有効期間は、3年間（平成26年6月に開催予定の定時株主総会終結時まで）としたします。

ト 本プランに対する当社取締役会の判断およびその理由

a. 本プランが基本方針に沿うものであること

本プランに基づき、当社取締役会は、大規模買付者の大規模買付提案が当社の企業価値、株主共同の利益の確保・向上につながるかを検討することで、当社の支配者として相応しいか否かの判別をし、そのプロセスおよび結果を投資家の皆様に開示いたします。

b. 本プランが当社の株主の皆様のご利益を損なうものではないこと

大規模買付者への対抗措置として現時点で想定しております新株予約権の無償割当も、当該大規模買付者以外の株主の皆様のご利益を損なわないよう配慮して設計しており、本プランが株主の皆様のご利益を損なうことはないものと判断しております。

c. 本プランが当社取締役の地位の維持を目的とするものではないこと

本プランの効力発生は株主総会での承認を条件としており、大規模買付者への対抗措置の発動プロセスにも取締役会の恣意性を排除するため、独立委員会のシステムを導入しております。以上により、本プランが当社の取締役の地位の維持を目的としたものではないかとの疑義を払拭するためのシステムを組み込んだものとなっていると判断しております。

なお、上記内容は概要であるため、本プランの詳細につきましては、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載してあります平成23年5月12日付プレスリリース「当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針及び当社株式等の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）の導入について」をご覧ください。（当社ウェブサイトアドレス<http://www.nishikawa-rbr.co.jp/>）

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1億7百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,343,000
計	48,343,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	19,995,387	19,995,387	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株 であります。
計	19,995,387	19,995,387		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年9月30日		19,995,387		3,364		3,661

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
西川 正洋	広島市西区	2,533	12.67
西川ゴム工業取引先持株会	広島市西区三篠町二丁目2 - 8	1,056	5.28
株式会社広島銀行	広島市中区紙屋町一丁目3 - 8	957	4.79
株式会社ハイレックスコーポレーション	兵庫県宝塚市栄町一丁目12 - 28	757	3.79
西川 泰央	広島市西区	747	3.74
住友信託銀行株式会社	大阪市中央区北浜四丁目5 - 33	626	3.13
株式会社山口銀行	山口県下関市竹崎町四丁目2 - 36	544	2.72
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	東京都渋谷区恵比寿一丁目28 - 1	540	2.70
西川ゴム工業社員持株会	広島市西区三篠町二丁目2 - 8	510	2.55
西川ゴム工業株式会社	広島市西区三篠町二丁目2 - 8	416	2.08
計		8,688	43.45

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 416,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,561,000	195,610	
単元未満株式	普通株式 18,387		
発行済株式総数	19,995,387		
総株主の議決権		195,610	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式82株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 西川ゴム工業株式会社	広島市西区三篠町二丁目 2 - 8	416,000		416,000	2.08
計		416,000		416,000	2.08

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)および第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,014	17,060
受取手形及び売掛金	11,561	12,525
有価証券	500	500
製品	1,835	1,908
仕掛品	764	896
原材料及び貯蔵品	1,351	1,627
繰延税金資産	633	725
その他	1,841	1,097
貸倒引当金	3	3
流動資産合計	37,500	36,338
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,782	6,644
機械装置及び運搬具（純額）	7,577	7,438
その他（純額）	5,767	6,001
有形固定資産合計	20,128	20,085
無形固定資産		
のれん	2,199	1,979
その他	700	678
無形固定資産合計	2,899	2,657
投資その他の資産		
投資有価証券	10,101	9,602
繰延税金資産	581	692
その他	628	616
貸倒引当金	5	5
投資その他の資産合計	11,307	10,906
固定資産合計	34,334	33,649
資産合計	71,835	69,987

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,039	7,195
短期借入金	12,588	12,840
未払法人税等	652	143
賞与引当金	939	996
製品保証引当金	42	29
その他	4,098	3,345
流動負債合計	25,362	24,551
固定負債		
長期借入金	1,057	675
退職給付引当金	2,086	1,903
役員退職慰労引当金	420	439
資産除去債務	368	372
負ののれん	53	42
その他	408	426
固定負債合計	4,395	3,859
負債合計	29,757	28,411
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,364	3,364
資本剰余金	3,660	3,660
利益剰余金	35,392	35,543
自己株式	427	422
株主資本合計	41,990	42,145
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	942	633
為替換算調整勘定	2,630	2,585
その他の包括利益累計額合計	1,688	1,951
新株予約権	5	-
少数株主持分	1,769	1,382
純資産合計	42,077	41,576
負債純資産合計	71,835	69,987

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	26,370	27,873
売上原価	20,643	23,553
売上総利益	5,726	4,319
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	1,384	1,248
給料及び賞与	580	771
その他	1,307	1,753
販売費及び一般管理費合計	3,272	3,772
営業利益	2,454	547
営業外収益		
受取利息	15	9
受取配当金	53	71
負ののれん償却額	11	11
持分法による投資利益	727	78
助成金収入	8	126
その他	72	81
営業外収益合計	888	378
営業外費用		
支払利息	96	101
固定資産除却損	51	53
為替差損	56	81
その他	9	28
営業外費用合計	214	265
経常利益	3,128	660
特別利益		
固定資産売却益	-	6
貸倒引当金戻入額	3	-
特別利益合計	3	6
特別損失		
固定資産除却損	-	7
固定資産売却損	-	6
貸倒引当金繰入額	0	-
投資有価証券売却損	-	20
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	252	-
特別損失合計	252	33
税金等調整前四半期純利益	2,879	633
法人税、住民税及び事業税	600	211
法人税等調整額	132	23
法人税等合計	732	187
少数株主損益調整前四半期純利益	2,146	446
少数株主利益	7	99
四半期純利益	2,139	346

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,146	446
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	522	298
為替換算調整勘定	330	22
持分法適用会社に対する持分相当額	12	34
その他の包括利益合計	864	355
四半期包括利益	1,282	90
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,276	82
少数株主に係る四半期包括利益	6	7

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,879	633
減価償却費	1,769	1,876
のれん償却額	-	219
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	252	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	3	0
退職給付引当金の増減額(は減少)	46	183
受取利息及び受取配当金	68	80
支払利息	96	101
為替差損益(は益)	9	86
持分法による投資損益(は益)	727	78
固定資産除却損	51	60
固定資産売却損益(は益)	0	6
投資有価証券売却損益(は益)	-	20
売上債権の増減額(は増加)	140	963
たな卸資産の増減額(は増加)	262	479
仕入債務の増減額(は減少)	349	157
その他	380	828
小計	3,778	547
利息及び配当金の受取額	274	110
利息の支払額	98	100
災害損失の支払額	-	89
法人税等の支払額	358	807
法人税等の還付額	67	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,663	339
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	2,136	10
定期預金の払戻による収入	10	874
有形固定資産の取得による支出	688	1,669
有形固定資産の売却による収入	3	50
無形固定資産の取得による支出	48	39
投資有価証券の取得による支出	12	14
投資有価証券の売却による収入	-	31
関係会社株式の売却による収入	-	857
貸付けによる支出	1	5
貸付金の回収による収入	8	2
その他	13	15
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,851	92

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	4,300	4,050
短期借入金の返済による支出	4,430	4,182
自己株式の売却による収入	0	-
自己株式の取得による支出	1	1
配当金の支払額	195	195
少数株主への配当金の支払額	-	426
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	327	755
現金及び現金同等物に係る換算差額	193	82
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	291	1,085
現金及び現金同等物の期首残高	9,872	11,745
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,164	10,659

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更および過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
	(百万円)	(百万円)
現金及び預金	17,859	17,060
預入期間が3か月を超える定期預金	7,694	6,401
現金及び現金同等物	10,164	10,659

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	195	10	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年11月11日 取締役会	普通株式	195	10	平成22年9月30日	平成22年12月3日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	195	10	平成23年3月31日	平成23年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月11日 取締役会	普通株式	195	10	平成23年9月30日	平成23年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	自動車用部品	一般産業資材	計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
売上高					
外部顧客への売上高	24,472	1,897	26,370		26,370
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	24,472	1,897	26,370		26,370
セグメント利益(注)	2,289	165	2,454		2,454

(注)セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	自動車用部品	一般産業資材	計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
売上高					
外部顧客への売上高	25,574	2,298	27,873		27,873
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	25,574	2,298	27,873		27,873
セグメント利益(注)	299	247	547		547

(注)セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	109円31銭	17円69銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	2,139	346
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,139	346
普通株式の期中平均株式数(株)	19,575,423	19,576,675
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	109円25銭	
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(株)	9,985	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第63期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)中間配当について、平成23年11月11日開催の取締役会において、平成23年9月30日現在の株主名簿に記録された株主または登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	195百万円
1株当たりの金額	10円
支払請求権の効力発生日および支払開始日	平成23年12月2日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月11日

西川ゴム工業株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 和 泉 年 昭 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 下 西 富 男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている西川ゴム工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、西川ゴム工業株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。